

Y 2008 No.47



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

寄贈本紹介

○評伝小説
花は一色にあらず

山田 義雄 著



アメリカで「ポテトキング」と呼ばれ日本人の心を伝えた牛島謹爾

久留米市梅満町に住まいの田中国弘さんは、“ポテト王を語る会”のお世話をされている。その田中さんが、この本の紹介ちらしを送っていただいた。

さっそく求めて読んでいますが、まず注目したのは、

◇20世紀の初頭、スタクトン、人跡未踏の地に、全く価値のなかったデルタ地帯を言語に絶する苦闘の末、開拓に成功し、輝かしい農場に拓き、ポテトキングと呼ばれるようになった「牛島謹爾」の一代記。

そのポテト王は、昭和5年（1930）発行の「高等小学修身書、児童用巻一」に「進取の気象」の題名で教材にまで挙げられていたことはあまり知られていなかったのではないかと。

その一部をここに書き写してみると――

「牛島謹爾は、久留米在の古い農家に生まれ、明治21年、25歳の時、志を立ててアメリカ合衆国に渡った。その頃の渡米者は大てい修学を目的とし、将来は日本に帰って官途に就かうといふ者が多かった。其の中で謹爾はひとり田舎の農園に行き、馬鈴薯作りの名人といわれる人に従って農事を習った。

こうした謹爾がポテト王と呼ばれ、アメリカ人から尊敬の眼でみられるまでの苦闘、この精神を養ったのは、江崎済が開いた八女の北訥義塾であった。」

（西日本新聞社刊）

○昭和29年入学

東京大学教養学部

文科一類八組

卒業50年記念誌

「知恵と正義と友情の」



秋も日に日に深まっていますが、御壮健にてお過しのことと拝察いたします。秋になると祈禱院のお宮の銀杏の黄色を思い出します。……と、

福島高校から東大に学ばれたという黒木久夫さんより、東さんへ送られた書簡の書きだし。自分史図書館の存在を知られた黒木さんはそこでこの記念誌を寄贈に及んだ次第。このクラス担任の安藤熙先生はドイツ文学者であったが、「歌と門の盾」で昭和15年芥川賞に選ばれながら辞退、菊池寛は激怒したというが、前に書いた「遺唐船」より劣る作品に賞とはというのが辞退の理由。芥川賞辞退者はこの先生ただ一人という。ペンネーム高木卓。生徒たちも畏敬の念で指導を受けた思い出が綴られている。このクラスから幾多の俊秀を輩出しているようであるが、写真を見てああこの人は、元日銀総裁の福井俊彦さん。

手にとって「友情」の熱量が啓示される記念誌として大変感銘深い内容である。

受贈図書紹介 35

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。
あしからずご了承下さい。

続・二人で書いて一人前 … 神部行雄・恒子 仙台市
歌集 日々のかたち ……………内藤 賢治 黒木町
詩集 雫集 ……………天乃 雫 甲府市
非常時に育った俺たち ……………中島 傳 広川町

七隈讃歌 …………… 福岡大学学術文化部会 福岡市
大刀洗空襲と三軒茶屋爆撃 …… 梶島 新 小郡市
トカゲの人 ……………田島 安江 福岡市
水の家 ……………田島 安江 福岡市
博多湾に霧の出る日は ……………田島 安江 福岡市
記憶の家 ……………野田 恭子



○改訂 燈籠人形夜話
杉山 洋

八女郷土双書初巻として、八女・本町筋を愛する会よりの刊行。

はじめに、この会の会長今里享さんの挨拶に、『八女福島の燈籠人形』が奉納上演される「福島八幡宮」は、旧福島城内住民の氏神として、江戸時代の寛文元年（1661）に創建された神社であることのいきさつが述べられている。

執筆の杉山さんは、「神社を成立させている社殿・氏子・儀式の三要素にその地域の民俗的習慣歴史反映」としての貴重な文化が見られるが、それがおざなりにされつつある現状から、伝承すべきことがらを挙げられた貴重な一等資料と読みとられる。「ちょぼくれ」などの俗謡由来など興味深い一章である。



○絵本 はいぬづか 創作民話
和泉幼稚園60周年記念

世良田静江 著
井口 保 画

著者の世良田先生は、和泉幼稚園の理事長そして園長をお勤め。絵は示現画家の井口先生。ふるさと筑後・羽犬塚の町を愛されるおふたりの先生が、子どもたちにやさしく羽犬塚伝説を語りかけられた美しい絵本である。

世良田園長先生は序に和泉幼稚園の創設期について「和泉幼稚園は昭和6年10月、農繁期託児に羽犬塚教会の日曜学校の延長として、若菜公会堂で始められ、幼児教育の起源となったことから語られている。60周年を記念して、子どもたちへ、平和な里を願いつつ描かれた絵本。一読、心温まる思い。



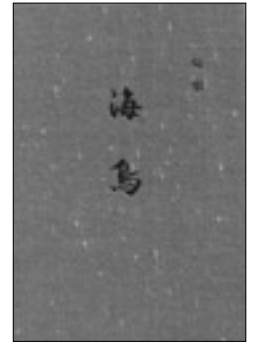
○「この人、この言葉
童話作家が会った40人」

はま みつを
(一草舎刊)

一草舎とは、長野市の出版社。著者のハマさんは「たとえ、なにげなく云われた言葉ではあっても、その言葉に大きな影響をあたえ、育ててくれた。どんな言葉をいただいていたかと思えば――

たとえば、松谷みよ子さんの絵本『いない いないばあ』

いない いないと両手で顔をかくし、つぎに「ばあ！」と両手をひろげ、おどけてみせる。子どもは必ずキャッキョと笑う。この言葉は明確な二つの意味と場面から成立している。この変転。幼児をあやして遊ぶ民間伝承から汲みとられたこの言葉の妙。



○句集 海鳥
旭 昭平

寒鴉に啼かれ無職の徒になりぬ
雪しんに残る夕焼水に溶かす
枯木総立ちて天芯の月磨く
初風や錨鎖が捲かれつゝ光る
初秋や馬啼パカポコ仁田峠
いまの世もさみし良夜の天拝山
(福岡市城南区)



もの現実生活の反映が先生や父親を描いた作品は影がうすい。子どもたち、おばあちゃんをたよりにしている、

▼芸術の秋10月は、「九州芸術文学賞」一次選考、60枚45篇、読みあげるのに老骨は骨を折った。つづいて、柳川・みやま市教育会編、児童詩集「からたち」の選、二百十篇の作品を読みあげたが、子どもの詩を読むのは楽しい。今、

▼自分史図書館 館だより“ya”も近々50号のつみかさねとなる。そこで記念特集大号でも企画したいと考えている。なにかいいプランがありませんしたらお知らせください。館長としても、「自分の人生を変えた一冊」

編集掌記

「この愛読書」「座右の銘」など、一筆啓上の調子で書いて貰えたらなどと考えている。▼芸術の秋10月は、「九州芸術文学賞」一次選考、60枚45篇、読みあげるのに老骨は骨を折った。つづいて、柳川・みやま市教育会編、児童詩集「からたち」の選、二百十篇の作品を読みあげたが、子どもの詩を読むのは楽しい。今、子どもたちは、おじいちゃん、おばあちゃんをたよりにしている、先生や父親を描いた作品は影がうすい。子どもの現実生活の反映が

自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。
貸し出しはしておりません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

読みとられる。▼郷土出身の伝記作家小島直記先生の追悼記を依頼され、改めて先生執筆の『新潮45』連載「人生時刻表」「致知」の「風の行方」など読み返したが、古雑誌とはいえ貴重な文献資料になると改めて思った。
(自分史図書館館長 椎窓猛)